

くまもとメディカルネットワークを活用した質の高い地域医療サービスの提供について

2022年1月17日

※本コンテンツは、医師の方を対象とし、当医療機関についての理解を深めていただけるよう作成しているものであり、一般の方を対象とする宣伝・広告等を目的としたものではありません。

日頃より、本院との診療連携にご協力を賜り、誠にありがとうございます。熊本大学病院 病院長の馬場 秀夫(ばば ひでお)です。

大学病院の特殊性として、様々な基礎疾患を合併した、治療の困難な症例を多く紹介いただくことが挙げられます。そのような患者様に最適な治療を提供するために欠かせないのが「患者様の医療情報」です。そのため、地域の先生方との情報ネットワークを構築するため、くまもとメディカルネットワークの利用を推奨しております。

先生方の中には発足初期の使いづらいイメージをお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、発足から6年、利用者の意見を踏まえて大きく向上しておりますので、今回改めてご紹介いたします。



馬場 秀夫
熊本大学病院長

いつでもどこでも、患者様に質の高い地域医療提供を目指して

熊本県では、熊本県地域医療連携ネットワーク構想に基づく地域医療体制の充実を目指して、大学病院には県からの寄附講座である地域医療・総合診療実践学寄附講座や、地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座が設置され、所属医師が地域の医療施設に赴き、地域医療を支援する体制を構築しております。

このような人的ネットワークとともに重要であるのが、患者様の医療情報を地域の先生方と共有する情報ネットワークの構築です。高齢化社会に伴い、最近では、重症かつ高齢の患者様が増えてきております。当院では、個々の患者さんのご希望やご家族の気持ちに寄り添いながらも、的確な診断をつけ、多職種連携によるチーム医療を実践し、最新で最適な治療を行うことにより、最良の結果をもたらすことを常に優先に考えておりますが、そのためには、地域の先生方との患者様の医療情報の共有が不可欠です。

そのような背景もあり、当院では、熊本県、医師会と連携してくまもとメディカルネットワーク(KMN)の利用を推奨しております。2015年の発足以来、本院でもたくさんの患者様にご加入いただき、また、熊本県の構想に賛同しKMNにご参加いただく施設も多くなってまいりました。

KMNは患者様だけでなく、患者紹介を頂く先生方にとっても様々なメリットがございます。

今回は、地域の医療ネットワーク構築による医療機能向上を目的として日々活動する「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」の泉 裕一郎(いずみ ゆういちろう)より、KMNの現状と日々の診療に役立つ機能をご紹介いたします。

発足から6年、進化するくまもとメディカルネットワーク



熊本大学病院地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座
腎臓内科 特任准教授

泉 裕一郎 (いずみ ゆういちろう)

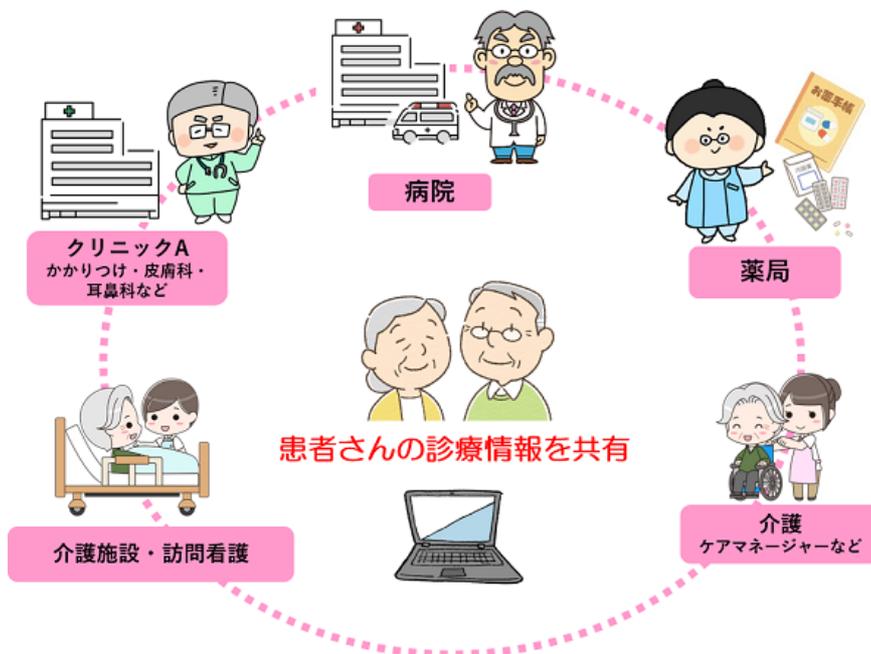
学会専門医・認定医

日本内科学会総合内科指導医・日本腎臓学会指導医

日本透析医学会専門医・日本高血圧学会専門医

くまもとメディカルネットワーク(以下、KMN)は 病院・診療所・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーション・介護施設等を、ICTを利用したネットワークで結び、安心・安全な医療、介護の提供に貢献することを目的として、2015年に熊本県医師会と熊本大学病院の共同事業として発足しました。

当初の参加は100施設ほどでしたが、現在では参加施設は600施設、参加患者様は6万人を超える、全国のネットワークシステムの中でも有数の規模に成長しています。



発足当時の課題と現在の姿

先生方の中には「KMN=使いづらい」といったイメージがある方も多いのではないでしょうか？

このようなイメージがある大きな要因の1つは「発足当時の参加施設、参加患者様が少なかったこと」であると考えています。当時は、限定されたパイロットエリアでのみネットワークの構築が推進されていたため、本来の意味での地域連携ネットワークシステムには至っておりませんでした。

今では参加施設は全県下に広がり、患者様にとっても、各施設にとっても、非常に利用しやすい環境となっております。

また、昨年から緊急搬送モードが実装されました。これによって、KMN参加患者様が万が一情報閲覧を許可していないKMN参加施設に急遽受診されることがあっても、KMNですぐに診療情報を取得でき、治療に役立てることが可能となりました。実際、記憶に新しい人吉・球磨地域の大規模水害で使用され、多くの患者様が適切な治療を受ける上で、多大な貢献をしました。

今回はその中でもKMNの大きな特徴である、「診療情報ビューア・介護情報ビューア」と「文書送受信機能」についてご紹介いたします。

診療情報ビューア・介護情報ビューア リアルタイムな情報共有を実現

診療情報ビューアは、加入されている患者様が指定したKMN参加医療機関で行った検査結果、処方・注射内容などを医療機関で閲覧できるビューアです。

患者様の診療情報を共有することで、重複検査・重複処方が避けられ、他施設で行われる治療を考慮した治療計画が立てられます。禁忌・アレルギー情報も共有されることで、安全な医療の提供につながります。

もうCD-Rへの画像取り込みは必要ありません！

KMNの活用により画像検査も閲覧することができます。

これまでのようにCD-Rに画像を取り込み、郵送や患者様に持参いただくことなく、リアルタイムに情報を共有できるため、紹介元医療機関および患者様の負担を軽減できるだけでなく、事前に画像検査の結果を確認できることで、来院前に検査予約を行えるなど、スムーズな診療に大きく貢献します。

現在、撮影した画像をビューアに自動でアップロードが可能となる画像配信自動化(RPA)システムの導入施設が増えてきており、より便利になってきました。

診療情報ビューア例：放射線画像の確認が可能

The screenshot displays a medical information viewer interface. On the left, a report for a chest CT scan is shown, including details like the hospital name (Saitama University Hospital), date (2021/10/14), and examination time (17:00). A red box highlights the '画像表示' (Image Display) button. A blue arrow points from this button to a pop-up window on the right titled '画像表示 (画像リンク)'. This window shows a grid of image thumbnails: a frontal view (D000000.jpg), a sagittal view (D000002.jpg), a 'NoImage' placeholder (D000004_NoImage.jpg), and two axial CT slices (D000045.jpg and D0000121.jpg). A '閉じる' (Close) button is at the bottom of the pop-up.

また、介護情報ビューアは、主に患者様の看護・介護の情報を共有できるビューアです。

医療機関での治療後の退院時看護サマリーや在宅ケアの際の看護・介護情報をビューアにアップロードすることで、複数の施設で連携して、患者様のよりよいケアに役立てられます。

文書送受信機能 万全のセキュリティで簡単に情報共有

診療情報提供書や画像データ、看護・介護サマリーなどあらゆる患者情報を、セキュリティ保護されたメールで送受信することが可能です。これまで郵送やFAX、患者様持参で授受していた情報を、安全・確実にリアルタイムに送受信できます。

診療情報ビューアとは独立して使用できますので、ビューアのまだ設定されていない段階での緊急の情報共有にも

利用できますし、患者様の紹介を迷ったときに、紹介先担当医に画像データだけでも見てもらうといった使い方も可能です。

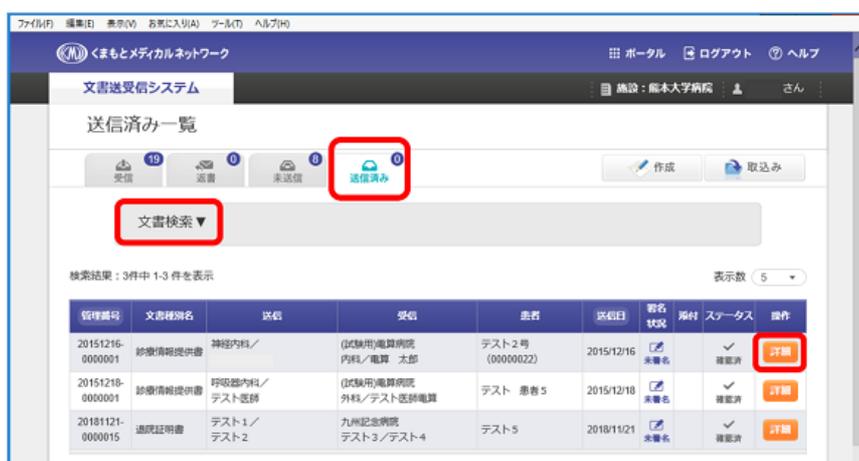
こんな経験ありませんか？ 情報共有時のヒューマンエラー

「郵送したのに届いていない。」「患者さんに手渡したはずなのに。」「FAXの誤送信をしてしまった。」といった、情報共有時のトラブルはあってはならないことですが、現在の方法では起きうる問題です。それらの課題もKMNの利用により解決します。

先生方の中には「新しいシステムを使いこなせるのか?」といった不安を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、ご安心ください。

KMNの設計は情報共有サーバーに患者情報をアップロード・ダウンロードして共有するシンプルなものです。ユーザーフレンドリーな設計であるとともに、マニュアルへもすぐにアクセスできますので、すぐに使いこなせるようになります。

文書送受信：シンプルなUIで複雑な操作なく、安全に文書の送信が可能



安全性向上だけではない ペーパーレス化のメリット

KMNの活用による文書のペーパーレス化は情報の安全な共有だけでなく、「コスト削減」および「有事の対策」としても効果的です。

コスト削減に関しては、シンプルに郵送・印刷費などを削減できるだけでなく、ICTを利用した画像データの送受信を行うことで、受信側施設にも診療報酬の加算があります。

また、猛威を振るった新型コロナウイルスなどの感染症対策としてや、地震、水害などライフラインの遮断を生じ得る大規模な災害など有事においてこそKMNは力を発揮すると考えております。人吉・球磨地域の大規模水害時は、地域の電話回線、インターネット回線が寸断され、携帯電話も使用困難となりましたが、インターネット回線は2日後には復旧し(電話・FAXの復旧は4日後)、KMNでの施設連携がすぐに回復しました。また、患者様の情報が日頃よりKMNのメインサーバに保存されることで、各施設の電子カルテが損害を受けても情報を失うリスクを回避できます。

先生方へのメッセージ

参加患者様と施設の増加に伴い、熊本大学病院でもKMNを実際に利用する機会が増えてまいりました。ICTを活用したネットワークは、超高齢社会で医療資源不足の問題を抱える私たちの地域で、遠隔画像診断、遠隔病理診断、遠隔診療などを可能にする基盤として、今後も発展が期待されます。KMNも、遠隔診療推進のための機能の拡張が想定されています。

今後も、当院の各診療科のKMN利用の実際やこれからの地域医療への活用のビジョンについてご紹介して参りますので、よろしくお願いたします。

お問い合わせ・ご相談窓口はこちら

くまもとメディカルネットワーク サポートセンター
公益社団法人 熊本県医師会 (内)

〒860-0806 熊本県熊本市中央区花畑町1-13

TEL : 0120-25-3735 FAX : 096-211-9926

(受付) 午前9:00~12:00 午後1:00~5:00 (土日、祝日、熊本県医師会の休日を除く)

メール : support@kmn.kumamoto.med.or.jp

この記事は…

当コンテンツ・当院に関するアンケートにご協力ください

Q1. 今回のコンテンツを見て、さらなる情報について知りたいですか。必須

- 該当しそうな患者がいるので相談したいと思った。
- 今のところ該当患者はいないが、発見した場合は紹介を前向きに検討したい。
- 本トピックで実際の勉強会があったら参加してみたい。
- 相談や勉強会までは不要だが、コンテンツがあれば引き続き見たい。
- とくに興味はない。



馬場 秀夫(ばば ひでお)

熊本大学病院長

日本外科学会指導医

日本消化器外科学会指導医

日本消化器病学会指導医

日本消化管学会胃腸科指導医 など

お問い合わせ先



熊本大学病院 熊本大学病院事務部 医療サービス課 地域・がん医療連携担当

TEL:096-373-5734

FAX:096-373-5828

メールアドレス: iyks-ganrenkei@jimu.kumamoto-u.ac.jp

ホームページ: <https://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/>

地域連携のご担当者様へ - 情報発信しませんか？

本サービスは、地域の中核となる病院とかかりつけ医の連携を目的として、病院が取り組んでいる医療の取り組みを記事としてお伝えしています。病院から地域のかかりつけ医の先生方への情報発信についてご興味がある方は、ぜひお問い合わせください。